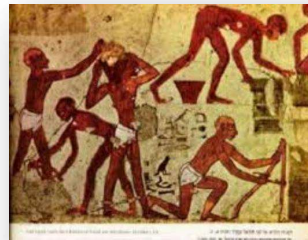


# マリアがイエスに注いだ香油

マルコの福音書 14:1~11

## I. 「過越の祭り」

1. **どんな祭り?** エジプトでの長い奴隷生活からの解放を記念
2. **敵の作戦** 騒乱が起きないように期間中は捕縛を避ける
3. **過越の羊とイエス** イエス・キリストは本当の「過越の子羊」



家の入口に羊の血を塗る

## II. マリア、イエスに香油を注ぐ

1. **どこで?** ベタニア: イエスと弟子たちの定宿(マルタ・マリア・ラザロの三きょうだい) ツアラアトを癒やされたシモンの家ででの出来事
2. **誰が?** 「ある女の人」=ベタニアのマリア
3. **何を?** ナルドの香油: インドからの輸入品、家宝、自分の葬りの日のために準備  
300 デナリ : 年収に相当  
「壺」アラバスター 一回で使い切る器  
「頭に注ぎ」「足に塗り、自分の髪でその足をぬぐった」(ヨハネ12章)  
Cf. 奴隷: サンドルの紐を解く、足を洗う
4. **なぜ?** 葬りのため(死者への敬意) ← 十字架と復活の予告  
メシア(=キリスト)「油注がれた者」油: 光、香り、熱、潤滑



アラバスター(雪花石膏)の壺

### 無言の信仰告白

### ローマンへの手紙 10:9

なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。

## III. 弟子たちの激怒

1. **なぜ?** 「無駄」(マタイ 26:8) 「300 デナリあれば、貧しい人々に施しができた」(弟子たち、イスカリオテのユダ)

最良を神(キリスト)に捧げるのを惜しむ心  
そうする人を非難する心  
無代価の恵みをさげすむ心

ユダは 30 枚の銀貨でイエスを売る(奴隷事故死の賠償額)



## 2. イエスの対応

- (1) 「彼女を困らせてはいけない」
- (2) 「良いことをしてくれた」 カロス κ α λ ο ς 「美しい」  
「世界中、どこでも、いつまでも語り継がれる」
- (3) 「マリア」今も愛される(あやかりたい)名前 「ユダ」(賛美) 我が子につける人はいない

## IV. 預言の成就

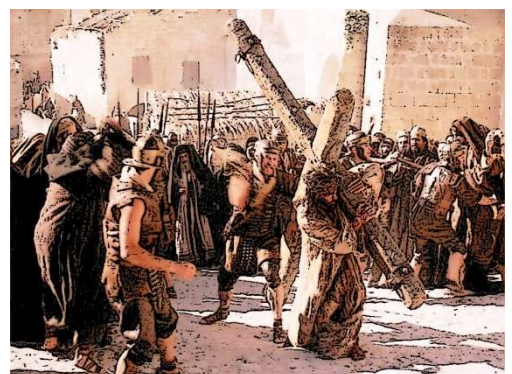
1. **敵のぬか喜び** 「イエスを捕える千載一遇のチャンス到来」
2. **「銀貨 30 枚」の預言**
3. **「過越の羊」**

「祭りの間はやめておこう」(14:1)と言っていたのに!

**ゼカリヤ書 11:12, 13 (500 年前の預言)**すると彼らは、私の賃金として、銀三十シケルを量った。主は私に仰せられた。「彼らによってわたしが値積もりされた尊い価を、陶器師に投げ与えよ。」そこで、私は銀三十を取り、それを主の宮の陶器師に投げ与えた。

### イザヤ書 53章6~8節 (700 年前の預言)

私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。しいたげと、さばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことだろう。彼がわたしの民のそむきの罪のために打たれ、生ける者の地から絶たれたことを。



# 福音メッセージ マリアがイエスに注いだ香油

マルコの福音書 14 章 1～11 節 【新改訳2017】

- 1 過越の祭り、すなわち種なしパンの祭りが二日後に迫っていた。祭司長たちと律法学者たちは、イエスをだまして捕らえ、殺すための良い方法を探していた。
- 2 彼らは、  
「祭りの間はやめておこう。民が騒ぎを起こすといけない」と話していた。
- 3 さて、イエスがベタニアで、ツアラアトに冒された人シモンの家におられたときのことである。食事をしておられると、ある女の人が、純粹で非常に高価なナルド油の入った小さな壺を持って来て、その壺を割り、イエスの頭に注いだ。
- 4 すると、何人かの者が憤慨して互いに言った。  
「何のために、香油をこんなに無駄にしたのか。」
- 5 この香油なら、三百デナリ以上に売れて、貧しい人たちに施しができたのに。」  
そして、彼女を厳しく責めた。
- 6 すると、イエスは言われた。「彼女を、するまますべておきなさい。なぜ困らせるのですか。わたしのために、良いことをしてくれたのです。」
- 7 貧しい人々は、いつもあなたがたと一緒にいます。あなたがたは望むとき、いつでも彼らに良いことをしてあげられます。しかし、わたしは、いつもあなたがたと一緒にいるわけではありません。」
- 8 彼女は、自分にできることをしたのです。埋葬に備えて、わたしのからだに、前もって香油を塗ってくれました。
- 9 まことに、あなたがたに言います。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられるところでは、この人がしたこと、この人の記念として語られます。」
- 10 さて、十二人の一人であるイスカリオテのユダは、祭司長たちのところへ行った。イエスを引き渡すためであった。
- 11 彼らはそれを聞いて喜び、金を与える約束をした。そこでユダは、どうすればイエスをうまく引き渡せるかと、その機をうかがっていた。